

姉妹そろってメダル獲得！



Profile

遠藤 朱李選手 (左)
1999年9月生まれ 鏡石二小教諭
遠藤 梨李選手 (右)
2002年2月生まれ いちご株式会社
ウエイトリフティング部所属

鏡石の若い力

重量挙げの全日本選手権は、4月26日(金)、27日(土)の2日間、長崎県諫早市の小野体育館で開催され、姉の遠藤朱李選手は女子87kg級で銀メダル、妹の遠藤梨李選手は女子59kg級で金メダルに輝きました。

重量挙げ全日本選手権

遠藤梨李選手 59kg級初制覇
遠藤朱李選手 87kg級2位

おふたりとも、この度は、受賞おめでとうございます。早速ですが、今回の結果を受けての感想をお願いします。朱李選手 「素直に嬉しいです。ずっと応援してくれている子どもたちにメダルを見せられてほっとしました。」

梨李選手 「今回は絶対に優勝すると決めて臨んだ大会だったので、思い通りの結果となつて嬉しかったです。」
朱李選手 「競技中はどうなことを考えていましたか。」
梨李選手 「私はあまり緊張しないタイプなので、とにかく楽しいという感情が95パーセントを占めていました。」

朱李選手 「私も楽しいという感情がほとんどです。残りが85パーセントくらいです。おふたりとも、競技に對して楽しいという感情が強いんですね。モチベーションを維持したり、心身共にコンディションを整えるために気を付けていることは何ですか。」

朱李選手 「私は、あまり悩まずに前向きに取り組むことかなと思っています。スランプになつたり悩むのも、頑張っ

て頑張っていきたいです。」
日頃どんなことを意識して練習に臨んでいますか。
朱李選手 「なかなか常に好調ということはなく、誰にでも不調な時期は来ると思うので、その時に備えられるよう常に対策を考えるようにしています。自分の弱点を受け入れて、プラスに変えていけるようにしたいと思っています。」

今後の目標や展望を教えてください。
朱李選手 「とにかく頑張っている姿をみせることで、これまで出会えた皆さんの方々に恩返しをしたいと思っています。メダル獲得や、大会の結果はその過程にあるものだから、結果は気にせず、頑張ります。」

梨李選手 「試合後には、次の大会を見据えて改善点を伝え合つたりしていますね。やっぱり、身近に同じ競技をしている人がいてくれるのは、心強いと思います。」

最後に、応援してくれている方々へ一言お願いします。
朱李選手 「町民の皆さんももちろんですが、特に担任している子どもたちや保護者の方々にいつも温かい応援をいただきありがとうございます。これからも頑張ります。妹の活躍をみて、更に頑張りたいと思います。今後は、国際大会にもたくさん出て、次こそは金メダルを取れるようにしたいです。」

梨李選手 「試合後には、次の大会を見据えて改善点を伝え合つたりしていますね。やっぱり、身近に同じ競技をしている人がいてくれるのは、心強いと思います。」

最後に、応援してくれている方々へ一言お願いします。
朱李選手 「町民の皆さんももちろんですが、特に担任している子どもたちや保護者の方々にいつも温かい応援をいただきありがとうございます。これからも頑張ります。妹の活躍をみて、更に頑張りたいと思います。今後は、国際大会にもたくさん出て、次こそは金メダルを取れるようにしたいです。」

大舞台で活躍

U-20 アジア陸上競技選手権大会の最終日は4月27日(土)に、アラブ首長国連邦のドバイで男子3000mが行われ、増子陽太選手(学法石川高2年)が8分16秒06で優勝しました。

U20アジア陸上選手権



写真提供: るんたん

増子陽太選手 国際大会初V
男子3000mで金メダル

この度は、本当におめでとうございます。初めての国際大会出場ということでしたが、いかがでしたか。

増子選手 「国際大会出場どころか、海外へ行くのも初めてだったので、気候や食事、環境などすべてが日本と違うというところで、出発前には不安に思うことがありました。大会一週間前から現地入りして練習をしていたのですが、コンディションを整えるのが大変でした。自分一人で調整を行わなければならなかったの

Profile

増子 陽太選手
2007年8月生まれ
学法石川高校2年 陸上競技部所属

ですが、本番までにしっかりと間に合わせることができました。優勝という結果については、今後の自信に繋がりました。今年度はまだ始まったばかりということで、良いスタートを切れましたし、所属しているチームにも貢献できたいと思います。」

レース中の走りを振り返ってみて、良かったと思う点や改善点があれば教えてください。
増子選手 「良かった点は、単独走で押し切れたということと、早いペースで押し切つて独走することは得意なのですが、今後は、特にラスト一周で確実に勝ち切るような力をつけることを課題として

今後の目標は何ですか。
増子選手 「インターハイ、全国駅伝など大きな大会に出場して勝ち切れるようにしたいです。良い記録を出すことが自信に繋がると思っていますので、一つひとつの大会を大切に、仲間と切磋琢磨しながら日々頑張っていきたいと思っています。」



写真提供: るんたん

Message



松田 和宏さん
学法石川高校
陸上競技部顧問

初めての国際大会ということで、本人にとっても非常に良い経験になったと思います。普段と違う環境の中、自分ひとりでもしっかりとコンディションを整えて、結果を出すことのできる勝負強さを感じました。
個人としても期待していますが、駅伝などでもチームを引っ張ってほしいと思います。

応援している方々や、町民に向けてメッセージをお願いします。
増子選手 「大会に出場するたびに、皆さんから声をかけていただいたりしています。皆さんが支えてくださることが力になっています。皆さんのためにも良い成績を残せるよう、これからも全力で頑張りたいと思いますので、あたためたい応援をよろしくお願いします。」